

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

研究協力のお願

昭和大学薬学部では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

昭和大学病院における漢方エキス製剤の処方実態調査

1. 研究の対象および研究対象期間

2019年1月1日～2019年12月31日の間、昭和大学病院において漢方エキス製剤を処方された方

2. 研究目的・方法

医療用医薬品のうち、薬効分類が「漢方製剤」であるいわゆる医療用漢方製剤は1967年にはじめて薬価基準に収載され、2018年現在で148品目に上り、年々増加傾向にあります。現在、医学・歯学・薬学・看護学の各教育モデル・コア・カリキュラムには和漢薬（漢方薬）を学ぶ旨が記載されており、薬学生はもちろん医療を学ぶ学生に対する漢方に関する教育が行われています。また、近年の調査では、漢方薬を現在も処方している医師は89%にのぼり、以前まで処方していた医師とあわせると97%の医師が漢方薬の処方経験があるという結果が示されています（漢方薬処方実態調査、日本漢方生薬製剤協会、平成23年）。また、医師が漢方を処方する理由として「患者の要望」が多く挙がり、患者にとっても漢方薬は身近で信頼される薬になりつつあるといえる状況下にあります。このように、医療を学ぶ学生や医療従事者、患者の中で漢方薬は身近な存在となってきたといえます。

その一方、「自分が病気になったら漢方薬を服用するか」との問いに対して、「積極的に服用する」と回答した医師は31%でしたが、「基本的に服用しない」、「まったく服用しない」と回答した医師は56%にのぼり、その主な理由として「エビデンスが乏しい」「診断自体が曖昧である」などが挙げられました（日経トレンディ、平成27年）。このことから、患者の求めに応じて漢方薬を処方する医師が多い一方で、医師自身は漢方薬の効果に懐疑的であることが明らかとなっています。

また、漢方薬を処方する医師が増えてはいるが、漢方医学独特の考え方である「証」や「気・血・水」の考え方を習得している医師は少なく、真に患者に合った漢方薬が処方されているとはいいがたいケースがあることも想定されます。このことは、患者個々にマッチしない薬を服用することによって病状が回復しない、医療資源の浪費による医療費の高騰等につながるだけでなく、副作用の発現や漢方薬に対する不信につながる大きな問題となっています。

このような背景をふまえて、諸問題解決にむけた研究の手始めとして、平成31年（令和元年）に昭和

大学病院に入院または外来した患者の診療録を用いて、漢方エキス製剤の処方実態を明らかにすることを目的として本研究を行います。

本研究は学術研究であり、昭和大学病院の入院及び外来患者データを利用する。患者データは病院内の診療録管理室にて「3. 研究に用いる試料・情報の種類」に記載した情報を取得します。取得した情報は、本研究者間のみ情報を共有します。

研究期間

2020年4月1日～2022年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

処方された漢方エキス製剤に関する情報（薬剤名、規格、処方量、処方日数、処方日）
患者背景（年齢、性別、診療科名、入院/外来の別）

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：薬学部薬学教育学講座教育・企画評価学部門 研究責任者：福村基徳

住所：142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8 電話番号：03-3784-8142